

NEW!

品種の特性と栽培のポイント

ハクサイ

はつみづき

サカタ交配

「初美月(SC9-646)」

天候不順でも生育安定！
耐寒性に優れる12～1月どりハクサイ

「初美月」は、外葉や球の青みが優れ、安定して寒さに強いので、昨今、暖かいことが多い11月後半～12月前半からの急激な温度低下に対し、持ち味の耐寒性を十分に発揮します。また、秋は秋雨や台風で温暖多雨な傾向が多いですが、「初美月」は比較的株が暴れにくいので、安定して生育します。べと病や根こぶ病にも強く、安心して栽培できる品種です。



特性

- ①秋まきで播種後80～85日程度で収穫できる中生品種。
- ②外葉は極濃緑で頭部はよく包被する。草姿は立性である。
- ③球形は砲弾形で、球長28～30cm前後、球重3.0kg前後になる。
- ④球内色は全体に黄色が回り、カット販売での商品性が高い。
- ⑤根こぶ病には従来よりも幅広いレースに耐病性があり、べと病にも耐病性がある。

※根こぶ病のレースや菌密度によっては発病する場合があります。

適応性

温暖地が8月下旬～9月上旬播種、12月中旬～1月収穫、暖地が9月上旬播種、12月中旬～1月収穫の栽培に特に適します。根こぶ病には従来よりも幅広いレースに耐病性があり、べと病にも耐病性があります。低温肥大性が極端に優れる品種ではないため、播種・定植の遅れに注意します。

栽培のポイント

●播種・育苗管理

高温期の育苗管理になるため、苗床の遮熱・遮光対策、換気などを心掛けます。遮光資材を適切に利用し、掛け過ぎによる苗の徒長に注意します。灌水は、天候や生育状況に応じて行い、過剰な灌水や夕方以降の灌水は軟弱徒長の原因になるので避けます。

●定植・栽培管理

定植の遅延や老化苗の使用は、定植後の活着・生育不良につながり、石灰欠乏症の発生・結球不良・重量不足・抽苔などの原因になるため、適期の定植を心掛けます。施肥量は、土質、栽培環境などに応じて調整します。吸肥力や草勢は、一般的な80日タイプの品種に比べるとややマイルドな品種ですが、多量の元肥施肥は、株の暴れや病気の発生につながります。緩効性肥料や有機質肥料を使用したり、生育状況や天候などに応じて追肥で調整するような肥培管理を心掛けます。

●病害虫防除

高温期の育苗は、コナガ、アザミウマなどの被害が多くなるため、苗床での病害虫防除が重要です。また、秋の長雨や台風シーズンと生育時期が重なり、特に降雨後は防除作業が後手になることが多いです。細菌性病害や病害虫の発生が多くなる時期のため、予防的な薬剤散布を心掛けます。また、圃場内で極端な湛水が発生しないよう、浸水(雨水の浸入)・排水対策を行い、土壌の過湿や根の窒息被害に注意します。根こぶ病に耐病性がありますが、レースや菌密度によっては発病する場合がありますため、土壌pHや圃場水分の調整、農薬の使用などを合わせて行い、総合的な病気対策を心掛けましょう。

●収穫

頭部を押さえて硬くなり、中身が

ある程度締まっていたら収穫適期です。外葉や球の青みが強く、耐寒性は強いですが、過度な収穫遅れは石灰欠乏症や球内の退色、ゴマ症の増加につながりますので注意します。

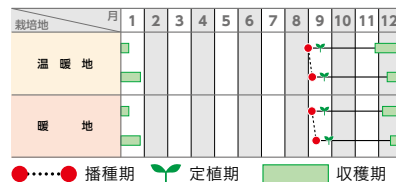
●生理障害対策

生理障害の一つである石灰欠乏症(アンコ)は、圃場に十分な石灰があっても発生することがあります。原因は、老化苗の定植、過剰な施肥、過湿、結球期の極度な乾燥、気温の変化などで、根の動きがこじれ、水分や養分を十分に吸収できない際に発生します。これには、ハクサイの根張りを向上させることが大切です。適期定植を心掛けるとともに、「バイテクバイオエース」などの有機質肥料や完熟堆肥を使用し、健全な土づくりを心掛けることで生理障害の発生を軽減させます。有機質に富んだ圃場のハクサイは風味がよく、品質の向上にもつながります。また、極端に乾燥が続く場合は、適度に灌水を行い、生育がスムーズに進むよう心掛けます。

文/サカタのタネ 谷村 佳則

販売ページ…………… P.53

作型図





この品種のココがポイント!

ハクサイ

「初美月」(SC9-646)

サカタ交配

文・写真／編集部



品種紹介動画

耐寒性

+

晩抽性

+

在圃性

天候不順でも安定した収穫に評価あり

◎ 年内から年明けまで収穫できる

◎ 根こぶ病、べと病、黄化病、白さび病に**耐病性あり**

※環境条件や菌のレースによっては発病する場合があります。

◎ 葉色が濃く、寒さに強い

寒さによる
傷みが少なく、
調整が容易



● 品種によっては黒腐病が激発する圃場でも、「初美月」は発病が少なく耐えていた。

■調査場所:静岡県 ■調査日:2020年1月16日 ※当社調べ

■調査場所:茨城県 ■調査日:2020年12月9日 ※当社調べ



● 年明け収穫でも芯が伸びず、抜群の安定感!
8月中旬播種⇒9月中旬定植

■調査場所:茨城県 ■調査日:2023年1月18日 ※当社調べ



● 厳寒期でも葉色が濃く、健全な様子。
無結束栽培で2月下旬まで収穫できた。
8月中旬播種⇒9月中旬定植

■調査場所:茨城県 ■調査日:2023年2月21日 ※当社調べ

| 栽培地 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
|-----|-----------------------|----|---------------|-----|-----|----|
| 温暖地 | | 定植 | → | | 収穫 | |
| 暖地 | | 定植 | → | | 収穫 | |
| 温暖地 | 定植:9月中旬 | | 収穫:11月下旬～1月下旬 | | | |
| 暖地 | 定植:9月下旬～10月上旬 | | 収穫:12月上旬～1月下旬 | | | |
| ④ | 定植遅れによる不結球 収穫遅れによるアンコ | | | | | |